

あ い さ つ

エコチル調査 福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

5年経って、そして未来へ

熊本地震により被災をされました熊本、大分地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

エコチル調査において、子ども達は東日本大震災が発生した年の夏から誕生し、福島では現在12,000人を超える1歳から5歳のお子さんが、本調査に参加しています。震災からの5年間は子どもの成長の5年ですが、復興に取り組んだ5年でもあります。この5年間、福島のご家族の皆さまは様々な思いの中で過ごされ、そしてエコチル調査を支えてくださいました。参加されている福島のご家族、関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

福島県では震災後、ご家族や関係者からの全県下での実施の声に背中を押され、震災翌年の平成24年10月から調査地域が福島県内全59市町村へ拡大されました。全59市町村、50を超す県内の産婦人科医療機関と密に連絡を取り合いながらエコチル調査を実施することが求められました。その際、全国15ユニット中、最大の調査地域である南九州・沖縄ユニットの熊本大学サブユニットのスタッフの方々を福島にお招きしてアドバイスをいただき、また相双地域にお連れし「今の福島」をご案内しました。

熊本のご家族の皆さまは、私たち福島のご家族と同様に震災と子どもの成長に不安を感じています。東日本大震災の際、全国15ユニットの皆さまから多くの励ましの声や温かな見守りをいただきました。今度は福島が微力ながらも熊本の皆さまの力になればと考えております。

エコチル調査では参加者全員に半年ごとの質問票調査にご回答いただいておりますが、平成27年4月から、県内の小児科の基幹病院等で詳細調査における2歳児の医学的検査、

精神神経発達検査が開始されています。詳細調査は全参加者の5%に当たる方が無作為に抽出され、インフォームドコンセントの後に13歳になるまで、2年毎に同一の対象者に調査が繰り返して実施されます。福島県では約650人の子どもが対象となりご協力いただいています。

福島県でのエコチル調査はリクルート時には福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただき、15ユニット中最多の参加者に支えられ、質問票の返却率も常に上位グループで推移しています。参加されているご家族への感謝とともに、本調査に寄せられている大きな期待と責任を感じています。エコチル調査を通して、現在の子育て環境が少しずつ見え始め、シンポジウム等でお知らせする機会も増えてきました。今後、震災後10年、20年と経過してゆく中で福島での子育てを振り返るとき、本調査が重要な答えを導くものと信じております。今後も参加者、関係者の皆さまと一緒に子ども達の成長を見守り、そして歩み続けて行きたいと存じます。よろしく申し上げます。

平成28年6月

